

卒業生の合格体験記

「夢へ」

機械科1組 進路先：トヨタ自動車 株式会社

私は小学生の頃から車関係の職に就きたいと思っていました。その思いを実現したいと考える中で、今の技術や未来の技術をこの身で体験したいという思いから、トヨタ自動車への就職を夢にし、実現するために、可児工業高校機械科に不安と希望を抱きながら入学をしました。

1年生の頃から真面目に勉強を頑張ろうと意気込み学校生活を過ごしていたけど、やりたいことばかりをやって過ごす日々でした。その結果、部活ばかりに力を入れ、下から数えた方が早い成績をとっていました。しかし、就職には成績が重要視されることを知り、本気で勉強に取り組むようになりました。その結果、1年生最後の学年末考査で初めてトップ10以内の成績をとり、そこから勉強に対する熱が上がり勉強も部活も両立するようになりました。そして2年生は上位の成績を維持し続けることができました。

進路について真剣に考える中で、自分の夢であるトヨタ自動車には学園生という制度があることを知りました。しかし、私の評定では夢の実現には届いていないことを知り、そこで初めて1年生の時にやりたいことだけをやっていて自分を後悔しました。それでも私の夢を実現するために、さらに日々の学習に力を入れ、社会に出てからも通用する人間性を磨くため部活動にも力を入れていきました。3年生の進路決定をする三者懇談で、第1希望だったトヨタ自動車学園生の道は叶わないことを知り、1年生から学習に力を入れなかった自分の後悔を口にしましたが、同じトヨタ自動車の生産関係職の道があることを知り、そこに身を置き自身の夢を実現することを目指し、受験することになりました。学園生という第一目標ではないけれど、夢だったトヨタ自動車に受験できるだけでも嬉しかったのが本音だったりします。

私はメンタルが弱く、部活でも色んなプレッシャーに負け力を発揮することができませんでした。夢のトヨタ自動車内定を頂くために当日に力が発揮できるよう多くの先生方に面接練習の指導をお願いし、アドバイスをいただきながら対策を重ねました。また、筆記試験の勉強も問題冊子をひたすら解き、分からない場合は先生に時間を頂き教えていただきました。その結果無事内定を頂けることが出来て人生で一番嬉しかったです。

この内定をいただくために携わっていただいた先生方や、両親の支え、友達には感謝しかないです。この感謝を忘れず、自分の夢を謳歌し、多くの人の生活を支えられるものづくりに携わっていきます。

最後に、可児工業高校に入学して良かったです。本当にありがとうございました。

卒業生の合格体験記

「努力」

機械科2組 進路先：株式会社 アイシン

私は、高校卒業後は就職するために専門分野を学べる可児工業高校を選択しましたが、実際は漠然として将来的なビジョンを持ってはいませんでした。そのため、高校生活の中でやりたいことが見つかったときに少しでも進路選択に幅が持てるように、どんなことにも全力で取り組みたいと思い生活をしました。具体的には、日々の授業で予習や復習を大切にしてノートをしっかりと取り、苦手な教科にも真剣に取り組みました。定期考査にも毎回本気で臨みました。実習ではレポートを期限内に必ず提出し、作品は十分注意を払って、仕上げるように心がけてきました。1年生から学業成績を落とすことがないように、常に意識した3年間であり継続できたと思っています。

部活動では、中学時代から陸上部に所属し800mという中距離を種目としていました。大学に進学された陸上部の先輩に走るフォームや腕の振り方、トレーニングの仕方などアドバイスを沢山いただきながら、自主練習にも取り組みました。その先輩は、学業と部活動を両立された模範的な姿があり、憧れと尊敬の気持ちで努力をする大切さを学びました。

3年生になった頃、私の中では就職したい企業が決まっていたのですが、先生から株式会社アイシンの学園生を薦められました。学園生としての生活は厳しいことや、全国から能力の高い生徒が集まってくることを聞き、自分にできるだろうかと不安になりました。しかし、テレビのコマーシャルを見たり、ホームページなどで調べたりする中で、自動車部品以外にもエネルギー関係や環境に配慮した製品を開発するような幅が広い企業であることがわかり大変興味を持つようになりました。また、前年度にも機械科の先輩が入社されており、学園生の中でもさらに努力をされていることを知りました。

私はこのような素敵な先輩に出会えたり、知ることができたりしたことで、努力の大切さを再認識して自分に自信が持てるようになりました。最終的に自分が努力し続けられる社会人生活を送りたいと心に決め、就職先を株式会社アイシンの学園生に決めました。

就職試験に万全の状態で臨めるよう、専門科目やSPI、面接の対策を行いました。特に苦手である面接は自信が持てるまで、外部の講師の方や学校の先生方に繰り返しお願いをして練習しました。試験当日はとても緊張しましたが、対策を重ねてきたおかげで自分の全力を出し切ることができました。結果は、内定をいただきました。とても嬉しかったです。このような思いができたのは、指導いただいた先生方、相談にのってくれた友達、支えてくれた両親のおかげです。とても感謝しています。4月からは社会人となり苦労することも多々あると思いますが、高校生活で身に付けた粘り強く、努力をすることを忘れないようにしたいと強く思っています。

卒業生の合格体験記

「努力」

電気システム科 進路先：名古屋工業大学

私は、幼い頃からものづくりの分野に興味があり、将来はものづくりに関係する仕事に就きたいと考えていたので、可児工業高校に入学しました。高校では、電気基礎や電気回路などを始めとした専門的な知識を学ぶだけでなく、シーケンス制御やなどの実習を通して、実習を行うことでしか得ることのできない経験や知識を身に付けることができました。学んでいくうちに、ロボットの開発や利用に興味を持つようになり、大学でより深く学びたいと思いました。

私は最初、就職を考えていたので、大学に進学しようと考えてはいませんでした。しかし、高校生活を通して、人の役に立つロボットを開発したいと思うようになりました。そこで大学進学を決意し、大学の情報を集めるようになりました。いろいろな大学のオープンキャンパスに参加することで、受験に対するやる気をあげることができたり、より勉強に熱心に取り組んだりすることができました。

名古屋工業大学の基幹工学教育課程は夜間生であり、実際に企業で働きながら学ぶことができます。5年間、働きながら学ぶというところにとっても不安を感じましたが、オープンキャンパスや模擬授業を通して、名古屋工業大学のカリキュラムや設備などに魅力を感じ、受験することを決意しました。また、働きたいという意思と学びたいという意思、両方を選択することができる場所にも魅力を感じました。

この学部を受験するにあたり、対策としてさまざまな情報を集めました。大学のホームページやネット記事の情報を始め、学校の先生方や先輩方などに相談することで、更に試験に関する情報を知ることができました。また、面接の質問内容や口頭試問の問題傾向などは過去の先輩方の受験レポートを元に先生方と試験対策を行うことで、試験に備えることができました。そのおかげで実際の試験では、練習通り質問に受け答えをすることができ、しっかり実力を発揮することができました。合格した後は、スタサプというアプリを利用し、大学生活に向けて勉強に日々励んでいます。

大学入学後は高校の時よりも大変になると思いますが、自分の目標に向かって努力をし続け、後悔のない大学生活を過ごしたいと考えています。そして、合格するにあたり様々な方々に協力して頂いたことに対する感謝を心に刻み、これからも努力を積み重ねていきたいと思っています。

卒業生の合格体験記

「努力と感謝る」

化学技術科 進路先：日本碍子株式会社

私はものづくりで人々の生活を豊かにしたいと思い工業高校の化学技術科に進学をしました。化学技術科では、身近な工業製品の成り立ちやバイオテクノロジーや地球環境問題について学び、実習では定性分析など化学の分析の基礎を学びました。

高校2年の時に学科の代表として「工業高校生ものづくりコンテスト化学分析部門」に出場する機会がありました。放課後、分析の技術を磨くため何度も苦手な部分を練習しました。なかなか上手にいかない時は、先生にアドバイスをもらいできるまで、諦めずに取り組みました。学科の代表として最後までやり遂げたいと強い意志を持って結果として入賞を果たすことができました。この経験は私に自信を与えてくれました。

3年生になり進路選択の際には企業展や過去の求人票、ホームページなどで企業研究をしました。3年生では7月にある三者懇談までに就職希望先を決定しないといけなかったので過去の求人票を参考に企業を3社に絞りました。企業によっては、求人がいただけない年もあります。また、面接はどの企業でも選考試験の内容にあるため面接対策をするために、普段の生活の中で挨拶など友達との会話をとおしてコミュニケーション能力を鍛えました。さらに、面接指導でアドバイスされたことを意識して何回も練習しました。試験当日は緊張しましたが、対策も十分にしていたので面接は落ち着いて答えることができました。その後は、入社試験に合格し内定を頂くことができました。合格できたのは私一人だけの頑張りのおかげではありません。両親や先生方、友人たちの助けがあったからです。これから幾度も壁にぶつかって思い通りにいかないこともあると思いますが、今まで支えていただいた方々への感謝の気持ちを抱きながら、前を向いて進んでいきます。

私はこの高校3年間で振り返って、目標に向かって努力を続けていく大切さを学ぶことができました。1人の力だけでなく、多くの人の支えがあってこそ成長していくことができるのだと感じることができました。今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、今後も頑張っていきたいと思います。そしてこれからも成長を止めないように努力し続けていき、これから共に働く仲間や先輩、上司の方達にも感謝の気持ちを持って、社会人としての生活を送れるようにしていきたいと思っています。

卒業生の合格体験記

「大学進学に向けて」

建設工学科 進路先：名城大学

私は橋やダムなどに興味があり、そのような社会基盤の建設に携わりたいと思い可児工業高校に入学しました。学年を重ねるにつれて現場見学会や社会見学、インターンシップや課題研究などを通して土木工学に対する関心はますます強くなり、現在高校で学んでいることよりも高いレベルの授業が受けたいと思い進学を決意しました。

3年生になると、卒業生の進路状況や学科の先生への相談だけでなくオープンキャンパスに参加することで大学がより身近に感じられるようになりました。中でも名城大学はカリキュラムが自分に合っており、研究室の内容や就職率、実験・実習のための設備や施設などに目を引くものがありました。高校で得意だった設計や力学、測量だけでなく、環境工学や防災工学、交通工学などまだまだ学びたいことは定まっていますが、大学での研究は高校の授業とは違って果てしないものになると思います。そのために推薦条件は勿論のこと、十分な学力が必要になると思いました。さらに、高校在学中は進学補習にも参加していましたが、受験科目においては普通科高校の生徒と比べて学びの量にかなりの差があったと感じました。そのため、大学へ入学できたとしても苦労してしまうことは目に見えていたので、2年生のうちから英語や数学の参考書を手に取り自主的に勉強を始めていました。また入試の要項や受験報告書を見て、推薦入試で問われる口頭試問や専門分野に対する考えをまとめるために、日頃からニュースや新聞などにも目を通してきました。特に高校在学中に取得できる資格である土木施工管理士補や測量士補の勉強は専門分野に特化した資格だったので大学入試に向けての勉強にも大いに役に立ったと思います。

私たちは、大学合格がゴールでないということは言うまでもなく、大学で良い成績を残すことが求められています。なぜなら、この合格は自分の力で勝ち取ったものとは到底言えないからです。ゴールではなくスタートであることを一時でも忘れてはなりません。先輩方の努力と結果があって、このご縁があることに感謝し、このバトンを後輩に繋げられるよう、限りなく準備をする必要があると思っています。

大学では土木工学を学ぶことの楽しさを忘れずに、今よりもレベルの高い学びを追求できるよう、更なる学習を重ねていきたいと思っています。また高校から始めたトランペットも、もっとたくさんの仲間と出会い、交流できることを楽しみにしています。様々なサポートをしてくださった先生方や一緒に高め合ってきた友人、近くで支えてくれた家族がいての合格だと思っています。お世話になった方々への感謝を忘れずにこれからも頑張っていきたいと思っています。